

博 慈 会

老研一口伝言

選挙の季節。現代未病というレンズで投票に行こう

選挙の季節がやってきました。

街には候補者の声がうるさく響き、SNSには政策の断片が飛び交います。誰に託すべきか、どの政党が正しい未来を切り拓いてくれるのか。悩めますね。

そんなとき、私たちの手にもう一枚のレンズを加えてみませんか。

そのレンズが私達の「**現代未病**」という考え方です。「自分の身体は自分で守る。その自分で守れる状態こそが未病である」

と。これは単に病気を防ぐという医学的次元を超えて、自分の生活や健康、未来に対して責任と自律性を持つという**生き方の姿勢**なのです。この未病というレンズで政党の政策を見直すと、これまでとはチョット違った評価軸が見えてきます。

たとえば、立憲民主党は「予防医療の強化」や「家庭医制度の導入」を政策に掲げています。これは、病気になってからの対処ではなく、未病の段階で支える社会を目指すというメッセージかと思います。

また日本維新の会は、「若年世代の社会保障負担を減らす」ことを目標に、医療や介護制度の効率化を進めようとしています。

未病という言葉こそ用いていませんが、

「病気を未然に防ぎ、健康を維持することが制度を支える」という発想と接点があります。維新が進める自己責任・自立支援の方向性は、現代未病の理念と重なり合う部分を持っています。

そして、国民民主党の「自分の国は自分で守る」という安全保障政策は、一見、未病とは無関係のように思えます。しかしその根底にあるのは、「依存せず、自ら備える」という思想です。これは、未病が目指す「自分の身体は自分で守る」という自律の精神と響き合います。

このように、政党の政策を「現代未病」というレンズで読み解いていくと、単なる医療政策ではなく、**社会保障全体の構造や人生観、国家観までもが透けて見えてきます**。

私たちは今、医療費の増大や高齢化、社会保障制度の危機に直面しています。これらはすべて、誰かに任せるのではなく、一人ひとりが自らの健康と生活を守っていくという発想なしには、乗り越えられない課題です。だからこそ、選挙という節目を、私たち自身の「生き方を選ぶ機会」として捉えましょう。投票所へ向かう時には、「現代未病」というレンズを添えてください。未来の医療を、社会保障を、そして自分自身の健康と生き方を、誰に託すのか。未病の一票が、未来を変えていく力になります。

福生吉裕

